

知立 弘法さんかわら版

発行編集部

七月になりました。夏本番ですの
で、くれぐれもご自愛ください。

二〇二二年から「尾張名古屋・歴
史街道を行く」杜寺城郭・幕末史
―をお送りしていますが、今年には名
古屋城下町を起点に広がる臨街道に
絡む話をお伝えします。今月は犬山
城と東之宮古墳です。

★犬山城の変遷

上街道、下街道を北上すると、木
曾川沿いの断崖上に白亜三層の**犬山
城**が見えます。犬山城は**亀甲城**とか
白帝城とも呼ばれます。白帝城につ
いては、荻生徂徠が李白の詩に登場
する長江上流の城に因んで名付けた
と伝われます。

一四六九年、応仁の乱の最中に岩
倉織田氏当主織田敏広の弟広近がこ
の地に砦を築いたのが始まりです。

一五三七年、清洲三奉行のひとり、
織田信秀(信長父)の弟信康が、広
近の砦を平山城に改修して移りまし
た。

一五四四年、信康が斎藤道三との
戦い(加納口の戦い)で討死し、子



の信清が城主となりました。信清は
一五五八年の浮野の戦いで信長を支
援して岩倉織田氏を滅ぼしました。
その後、岩倉織田氏旧領の分与を
巡って信長と対立し、**一五六四年**、
信長に攻められて犬山城は陥落しま
した。

犬山城には信長家臣の池田恒興や
織田勝長などが入城し、**一五八二年**、
本能寺の変後は、信長の次男信雄配
下の中川定成が城主となります。

一五八四年、**小牧長久手の戦い**で
は、信雄方と見られていた大垣城主
池田恒興が秀吉側に寝返って奇襲を
かけて犬山城を奪取。秀吉は犬山城
に本陣を置いて**小牧山城**の徳川家
康・織田信雄連合軍と対峙しました。

戦後、**一五八七年**に**織田信雄**に返
還されましたが、**一五九〇年**、信雄
が転封を拒んで改易されると犬山城
は**豊臣秀次**の配下となり、秀次の父
三好吉房が城代を務めました。**一五
九六年**、秀次が切腹すると石川貞清
が城主となります。

一六〇〇年、関ヶ原の戦いでは岐
阜城とともに西軍の拠点となったも
の、岐阜城が陥落すると東軍に移
りました。

一六〇一年、清洲藩主松平忠吉の
御付家老小笠原吉次が城主となり、
江戸時代を迎えます。

一六〇七年、徳川十六神将のひと
り**平岩親吉**が入城。親吉は嫡子のな

いまま亡くなったことから、**一六一
七年**、尾張藩御付家老の**成瀬正成**が
城主となり、以後、江戸時代を通し
て成瀬氏九代の居城となりました。
成瀬家七代正壽がオランダ商館長
と親しかったことから、天守最上階
に絨毯を敷いたと伝われます。

小高い丘陵を利用した山城と平城
の中間型の平山城で、城下町は成瀬
氏が城の南側に造りました。城下
に入る木戸は六ヶ所に設けられ、外側
に武家屋敷を配置する町割は名古屋
城下町と同じ構造です。防衛のため
の丁字型や鉤型の街路を備えた城下
町が形成されました。

★楽田城の殿守

小牧山城と犬山城の間には**楽田城**
もありました。永正年間(一五〇四
〜二一年)に尾張守護代**織田久長**が
築城し、一五五八年、**浮野の戦い**で
信長とともに岩倉織田氏を下した犬
山城主信康に攻略され、信康の出城
となりました。

しかし、信康が信長と離反して犬
山城を追われると、楽田城にも信長
配下の武将が入城します。その後、
小牧長久手の戦いでは秀吉の陣所が
置かれ、戦後に廃城となります。

江戸時代初期の尾張の軍学者小瀬
甫庵の遺老物語に、**一五五八年**に楽
田城に**殿守(天守)**が築かれたと記
されています。楽田城は、殿守と呼
ばれる櫓を構築したことが文献上で
確認できる最初の城です。

★寂光院・大縣神社・東之宮古墳

犬山城の北東、木曾川の東岸に**寂
光院**があります。**六五四年**に孝徳天

皇の勅願によって創建された古刹で
す。

信清を下して尾張を制した信長は、
一五六五年、寂光院を参拝し、清洲
城の鬼門鎮護のために寄進しました。
犬山城と小牧山城の間にある楽田
城の東には**大縣神社**があります。社
伝によれば創建は垂仁天皇二七七年に
遡る古社です。式内社で**尾張国二宮**
です。

祭神は大縣大神(おおあがたのお
おかみ)で尾張国開拓の祖神とされ
ます。

犬山城と寂光院の間にある白山平
山の山頂に**東之宮古墳**があります。
尾張国で最古、最大の前方後円墳で
す。

古墳の主軸上に巨岩が乗っており、
冬至の日はこの巨岩上から陽が上り
ます。埋葬者は古代尾張氏の族長と
考えられます。

楽田城から大縣神社を挟んだ西側、
犬山城の真南には、**青塚古墳**もあり
ます。周辺には十数基の古墳があり、
青塚古墳群と呼ばれます。

古代、伊勢湾の海岸線が木曾川中
流域に位置していた時代には、畿内
から来た大王家に近い尾張氏一族は
尾張北部から美濃にかけて居住して
いたと考えられます。

尾張氏の古(いにしえ)を感じさ
せる犬山周辺の古墳群、社寺群です。

★志段味古墳群と味美古墳群

来月は**佐屋街道**の北側を通る**志段
味古墳群**と**味美古墳群**についてお伝
えます。乞ご期待。



知立 耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。七月ですね。夏本番です。今年も暑くなりそうです。くれぐれもご自愛ください。

かわら版では日常会話の中に含まれている仏教用語をご紹介します。知らず知らずのうちに使っている仏教用語。それだけ日本人の生活に溶け込んでいるということです。

今年も大谷選手は大活躍。「大谷選手は根性があるねえ」等々、日常で「根性」という言葉は結構使いますよね。実はこの「根性」も、もともとは仏教用語です。

仏教では、仏の教えを聞く人の受け止める能力や性質のことを「根性」と言います。

「根」を使った言葉には「根本」「根幹」「根気」等々があるように、「根」は肝心要(かんじんかなめ)の大切なことを指しています。そして「性」は誰もが心の奥底に備え持っている性質のことを指します。その二文字が重なって「根性」です。

仏教用語には「機根(きこん)」という言葉もあります。字を噛み砕くと、「機」は人の心の働き、「根」は人の根本的な性質や性格を意味するそうです。「根性」と同様に「機根」

は仏の教えを聞いて吸収できる能力や性質を指します。つまりは、持って生まれた本質的な人格と言っているようにう。

「根性」の逆向きの「性根(しょうこん、しょうね)」という言葉もあります。仏教用語的には「根性」と「性根」はほぼ同じ意味ですが、日常会話的には「根性」は頑張る力、「性根」はその人の性格と力、というように意味合いも込められています。

日常会話的には「根性」も「性根」も少し否定的なニュアンスを含む使い方もされます。「根性悪(わる)」「ひがみ根性」「根性まがり」「島国根性」「性根を叩き直す」等々の表現には後ろ向きなニュアンスが漂っていますね。

「根性」も「性根」も「機根」も要するに人間の「心」を指します。「根が腐る」と植物が枯れるように、人間も「心が腐る」と良心、倫理、道徳が衰え、いろいろ問題を抱えた状況になってしまいます。そう言えば「心根(こころね)」という言葉もありますね。

「般若心経」をよく読まれる方はご承知のとおり「色・声・香・味・触・法」を感じる人間の六つの器官である

「眼・耳・鼻・舌・身・意」を「六根(ろっこん)」と言います。「六根」から入ってくる「色・声・香・味・触・法」の情報にも、その人の「心根」「根性」

「性根」の先入観が影響します。生来の「根」の感性であり、持って生まれた感覚と言ってもいいですね。わかりやすい事例が、納豆の匂い、味、触感(ネバネバ感)を嫌だと思ふ外国人が多いことです。要するに先入観です。

仏教用語的には「人間の本质」を表す「根性」という言葉が日常会話で「頑張る力」「くじけない気力」というような使われ方が浸透したのは明治維新以降との説も聞きます。東京五輪(一九六四年)等も影響しているかもしれませんね。ひと頃は漫画やテレビ番組でも「スポ根」ものが流行りました。スポーツが上達するには「根性」が不可欠、という考え方をベースにしたストーリーです。東洋の魔女(女子バレー)を金メダルに導いた大松博文監督の発言が契機だったという説もあります。ではまた来月。

※

耕平

お知らせ

今年、令和7年1月から、「手配り」は縮小しました。

「山門」にかわら版を入れた台を置きますので、ご自由にお取ください。

ご協力、よろしくお願いいたします。

かわら版編集部：
大塚耕平事務所 TEL 052 757 1955

